

■科目名			
生徒・進路指導論 Counseling and Career Guidance to Students			
■開設年度	■区分	■学科名	■分類
2021	教職理解科目	心理学	
■単位数	■履修期	■履修条件	■開講期
2	5期		前
■担当教員			
島 義弘・今林 俊一			
■代表教員名及び連絡先等			
島：shima@edu.kagoshima-u.ac.jp 今林：ima@edu.kagoshima-u.ac.jp			
■オフィスアワー			
島：火曜日の午前中（要予約） 今林：水曜日の午前中（要予約） 講義中の質問は随時受け付ける			
■講義の概要（目的・内容・方法）			
<p>本授業では、生徒・進路指導の基礎について概説する。</p> <p>「生徒指導論」では生徒指導の意義について理解した上で、学校現場における事例の検討などを通じて、児童生徒の存在感が育まれるような対応、児童生徒全体への指導、暴力行為やいじめ問題、インターネットや性に関する問題などについて考察を深める。</p> <p>「進路指導論」では、進路指導・キャリア教育の意義について理解するとともに、ガイダンスとしての指導、カウンセリングとしての指導について理解を深め、自身のキャリアに対する関心・意識を高めることも目的とする。</p>			
■授業の到達目標及びテーマ			
<p>本授業は、学習指導と並ぶ重要な教育活動である生徒指導を組織的に進めるために必要な知識・技能を理解し、素養を培うとともに、長期的展望に立った人間形成を目指す進路指導や社会的・職業的自立に向けた基礎となる資質・能力を育むキャリア教育の考え方と指導法を理解することを目的とする。</p> <p>本授業における到達目標は以下の4点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒指導の意義や原理，ならびに全ての児童生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を説明することができる。 2. 個別の問題を抱える個々の児童生徒への指導方法を説明することができる。 3. 進路指導・キャリア教育の意義や原理，ならびに全ての児童生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導のあり方を説明することができる。 4. 児童生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を説明することができる。 			
■授業計画			
授業はすべて、対面で実施する予定である。			
<p>第 1回：生徒指導・進路指導・キャリア教育とは（担当：島）</p> <p>第 2回：生徒指導の意義と原理（担当：島）</p> <p>第 3回：教育課程と生徒指導（担当：島）</p> <p>第 4回：学校における生徒指導体制・教育相談体制（担当：島）</p> <p>第 5回：生徒指導の進め方：児童生徒全体への指導（担当：島）</p> <p>第 6回：個別の課題を抱える児童生徒への指導：いじめ・不登校（担当：島）</p> <p>第 7回：個別の課題を抱える児童生徒への指導：非行（性，暴力，飲酒・喫煙など）（担当：島）</p> <p>第 8回：生徒指導の実際（担当：島，附属小教員）</p> <p>第 9回：個別の課題を抱える児童生徒への指導：発達障害（担当：島）</p> <p>第10回：生徒指導に関する法制度等ならびに関係機関との連携（担当：島）</p> <p>第11回：児童・生徒の心理と理解（担当：島）</p> <p>第12回：進路指導・キャリア教育の意義と原理（担当：今林）</p> <p>第13回：キャリアガイダンス：基本的性格とストラテジーならびに関係機関との連携（担当：今林）</p> <p>第14回：キャリアカウンセリング：定義とプロセス，開発的カウンセリング（担当：今林）</p>			

第15回：キャリアカウンセリング：自己認識・自己概念，学習指導を支えるもの，生き方を貫くもの（担当：今林）

■授業外学習（予習・復習）

【予習】『生徒指導提要』（教科書），または他の指定された資料の該当箇所を精読してくる。他の学習を指示された場合は，それを行う。（学修に係る標準時間は約2時間）

【復習】『生徒指導提要』や講義資料を参考に，ニュース等で報道される生徒指導，進路指導（キャリア教育）に関する教育課題について考察する（学修に係る標準時間は約2時間）

■受講要件

3年生は初等教育コース（実技系の初等教育コース，特別支援教育教員養成課程で基礎免許が小学校のものを含む）に限る

■成績の評価基準

ミニッツ・ペーパー（30%）

生徒指導に関するレポート（50%）（総括レポートおよび講義中の課題）

進路指導に関する総括レポート（20%）

※生徒指導・進路指導に関する総括レポートが2つとも期限内に提出されていることが単位認定の前提となる。

※出席が12回に満たない場合は評価の対象としない。

■教科書・参考書

教科書：『生徒指導提要』（文部科学省，2010）

その他，必要な資料は適宜配布する

■教師としての資質能力に関するチェック項目

7. コミュニケーション力

【B連携協働力、自己改善力の育成】他者とのかかわりや適切なコミュニケーションの在り方について基本的な理解を深め，自らそれを実践することができる

9. 学習者の心理・発達に関する理解

【C学習者理解】子どもの発達や心理など，子ども理解のための基礎的な知識を身に付けており，それらを生かして子どもの発達を分析することができる

10. カウンセリングに関する理解

【C学習者理解】カウンセリングや教育相談についての基礎的な知識を身に付けており，それらの知識を学習者理解に活かすことができる

11. 特別支援教育に関する理解

【C学習者理解】特別支援教育に関する基本的な知識を身に付けており，それを生かした具体的な指導・支援の在り方を構想することができる

13. 生徒指導に関する構想力

【D構想力，展開力，評価力等】個々人の発達課題の把握や問題行動及びその対応等の理解を深めるとともに，積極的な生徒指導の在り方について構想することができる

アクティブ・ラーニング

グループ・ディスカッション；

振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

■実務経験のある教員による実践的授業

生徒指導の実際について，附属小教員が講義を行う。

■その他

講師の都合により，授業計画が変更されることがある。

受講者数とCOVID-19の状況によっては，遠隔授業とすることもあり得る。